



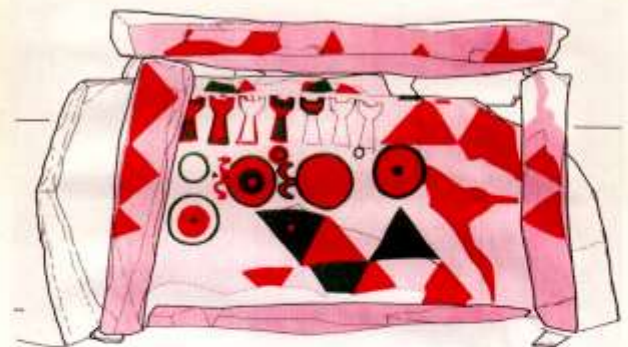
こうかだにこふん そうしよくへきが
弘化谷古墳と装飾壁画



広川町域の南には、狭長な丘陵(八女丘陵)が東西に走っています。この丘陵西端に谷を隔てて石人山古墳と弘化谷古墳が築造されています。両古墳はともに「国指定史跡八女古墳群」中の主要な古墳です。大型円墳(6世紀中葉築造、直径約39m)である『弘化谷古墳』は、横穴式石室の玄室奥壁に接して設けられた石屋形の内面及び小口部に、彩色が施された八女古墳群最古の「壁画系」装飾古墳です。

墳丘を含め胴張りの横穴式石室は、玄室半ばまでが果樹園造成時に破壊されていました。大破した玄室奥壁に被葬者を安置する場として肥後地域で盛行した石屋形を採用し、この内面と小口部分に壁画が描かれています。石材は石室も石屋形も緑泥片岩です。幅2m・高さ1.3mの石屋形奥壁には赤と緑二色で壁画が描かれているように見えます。ただ季節により個々の文様の判別が変化するので、緑色は片岩の地色の可能性があります。また、赤色(ベンガラ)も濃淡での描き分けがなされているようです。

壁面には連続三角形文・同心円文・双脚輪状文・線刻で輪郭がとられた武器(靱)の形象図文が見られます。双脚輪状文は、当古墳を含め福岡県嘉穂郡桂川町王塚古墳、熊本県釜尾・横山両古墳で見られる特殊な文様です。これらの図文は、墓室の平安(鎮墓)・除魔辟邪の意図のあらわれと考えられます。



弘化谷古墳石室石屋形の装飾壁画再現図 (1/20)

弘化谷古墳の壁画写真と実測図

時代【古墳時代Ⅱ】